



「Fの森」は市民がつくる市民のための森です。
 地形の凹凸や水の一滴、
 佇む木々、走るウサギ、
 そして未来にこの森を歩く子どもたち。
 全てを慈しみながらの「森づくり」の場を、
 ぜひ見に来てください。

2013年
(植樹祭)

北海道のあしたの森を育てる
コープ 未来の森づくり基金

「コープ未来の森づくり基金(あすもり)」は、森づくりを通じてCO₂の削減に取り組み、子どもたちに美しく豊かな北海道を手渡すことを目的に、森づくりや森づくり文化の醸成のための活動に取り組む、コープさっぽろが運営する基金団体です。

森づくりをしています

北海道の森づくりを応援しています

森づくりに関するイベントをしています

森の地図

「Fの森」の歩き方

Fの森

「Fの森」は、2013年から進めているあすもりの森づくりの場です。どんな森にするか、市民が学び、考え、進める、他には見ることができない森づくりの現場となっています。

ゲート 森林学習センター
Aゾーン
Fの森
 2008～2012年まであすもりで植樹を行いました。現在でも森づくり活動を継続しています。
 ゲート 未舗装道

アクセス

札幌市内から車で2時間ほど。公共交通機関はありません。

期間

概ね5月～10月まで、「道民の森神居尻地区」がオープンしている時期でしたらいつでも歩くことができます。ホームページからご確認ください。
<https://dominno-mori.org/>

お問い合わせ

コープ未来の森づくり基金
 csapmori@sapporo.coop
www.sapporo.coop/about/effort/environment/fund/2420/

道民の森 神居尻地区
 札幌 当別 滝川 岩見沢
 231 28 275 12 451

北海道のあしたの森を育てる
コープ 未来の森づくり基金



2024年



「Fの森」が目指すのは100年前の森をつくること。多様な樹種、多様な生き物たちが織りなす豊かな森をつくりたい。しかも、それだけでなく、紅葉がきれいな森、木の実がたくさんみえる森、山菜がたくさん採れる森など、人が森に来て楽しめる森にしたい。そう考えて森づくりを進めています。豊かな森を育て、人となげること。市民自身を考え、木を植えて、そして森を楽しむことで100年前にはあった森と人とのつながりをもう一度つくりたい。それが「Fの森」の目標です。



森づくりに関する専門的な知識が必要そうに見えます。実際に多くの植樹イベントでは森林組合などのプロが仕切ることが多いのでは。でも「Fの森」の主人公は市民のみなさん。どんな森にしようか市民が集まってワークショップ形式で計画し、それをプロがサポートして森づくりが進められています。だから「Fの森」は同じ樹種が列になって並んでいる植林地のような風景にはなっていないかもしれません。どんな風に違っているのか、ぜひ歩いて見てください。

市民参加の森づくり

当別町にある「道民の森神居尻地区」。その牧草地跡の森林再生エリアに「Fの森」があります。コープさっぽろは地球温暖化を止めるために全道の自治体などと協定を結んで森づくりにしています。中でも新しい試みや考え方を詰め込んだ取り組みが行われているのが「Fの森」なのです。あすもりが誇る「Fの森」の注目点をちょっとだけ紹介します。

「Fの森」の歩き方
 Since 2013
 2013



下の森

歩き方 2024 年版

「Fの森」へようこそ！

もともと広大な牧草地だったこの場所は、2013年からコープ未来の森づくり基金と市民グループが中心となって、100年前の原生林を目指して、しかも自分たちが楽しめるように計画を立てて、100年の仕事である森づくりに挑戦しています。

「Fの森」の「カタクリの丘」や「ヒバリーヒルズ」などの地名は、活動が始まったころ、ワークショップの参加者が歩き回りながら、特徴のある場所に呼び名をつけたのが始まりです。自然をよく観察し、友だちになったから名前があるのです。元からある地形や自然の魅力も生かしながら、どんな森になりつつあるのか、のんびり歩きながら見てみてください。

- 凡例**
- A1 アカエゾ交差点
見どころのポイント。色とアルファベットはルートを表します。ルートは「アカエゾ口」をスタートにABCの3ルート。見どころは欄外に解説しました。
 - 2013年 --- 地図中の西暦は、そのエリアで植樹した年を表します
 - 不明瞭なトレイルやサブルートです。道が悪い場合、技術や装備が必要な場所もあります。自信のない方は一人で行かないようにご注意ください。また、苗木もありますので踏まないように歩いてください
 - トイレット --- 簡易トイレ
 - 駐車場 --- 駐車場
 - 湿地 --- 湿地です。長靴で入りましょう
- 各植樹地に植えた樹種など、細かい情報は「アカエゾ口」にある看板の裏に表示してあります。ぜひご参照ください。

モリイクコース
コース長：約350m

平坦で歩きやすいお手軽コースです。植えた木々の様子を間近から観察できる場所もあります。

A2 トンボ沢
水の流れはすこしですが、湿地を渡る橋があります。ヤナギなどの水に強い植物が育ち、夏には数種類のトンボが飛ぶので、この名前になりました。

A4 モリイクテラス
Fの森の全体が見渡せる丘に、大きな木のテーブルが置かれています。休憩やお弁当どうぞ。案内看板や標識もあります。

A5 クルミ平
草原に枝を横に広げた低い木はオニグルミ。雪の重みで枝が曲がりくねっています。大きなクルミの実を運んで忘れたのはエゾリスかもしれません。

A6 2013年植樹地
Fゾーンで最初に植樹が行われたエリアです。18種類もの樹木が区画ごとに植えられていて、参加者が測った成長記録が残されています。

A1 アカエゾ交差点
アカエゾ口から入ってすぐの歩道交差点。どこへ行くにも通ります。針葉樹のアカエゾマツが植えてあり、遠くからも見えるので、目印にしてください。

A3 ヤチダモ・ヤチブキ湿地
背の高いヤチダモが自生する湿原です。早春にはヤチブキ（エゾリュウキンカ）の黄色い花が見事です。「ヤチ」（谷地）は湿地のことです。

丘コース
コース長：約400m

谷から丘に登る登坂コースです。ダイナミックな地形を歩き、遠くまで展望できる丘を目指しましょう。

C1 ドクカン橋
細いせせらぎを土管（どかん）に通し、その上を歩けるようにした橋です。これも牧場の名残。水辺が好きなヤチダモが生えています。

C2 イタドリ群落
Fの森の活動が始まった2012年ごろは高さ4mの大群落が広がっており、その中をかきわけて進んだので「イタドリ迷路」「未開地」などの名前が生まれました。

C3 ヒバリーヒルズ
最初の探検の時、ヒバリの巣があったため、おしゃれな地名になりました。標高は約300mで、神居尻山がとても近く見えます。また、道民の森神居尻地区のシンボルツリー「ハポニレ」もここから展望できます。

B5 ネコノメ湿地
丘の下は水が集まりやすく、湿った土にネコノメソウの群落があります。エゾリュウキンカは水の流れに沿って生えています。



B4 カンバ三兄弟
牧場になる前の森が残っています。よく探すとシラカンバ、ウダイカンバ（マカバ）、ダケカンバの3種類がそろっています。

B2 牛の水場
草原の中にコンクリートの四角い枠が残っています。放牧した牛の水場だったのでしょうか。牧場の面影が残る貴重な遺産です。植樹も進み、今は見つかりにくくなっています。

B3 あすもりテラス
Fの森全体を見渡せるポイント。広大な牧場跡と山あり、谷ありの景色をじっくり楽しんでください。天気の良いと暑寒別の日々まで見通せます。



B1 カタクリの丘
雪が溶けるとすぐ、カタクリが咲きます。周囲の草が伸びてくると葉を落として夏の眠りに。牧草の中で生き抜いたカタクリはすごい！

あすもりコース
コース長：約300m

見通しの良い丘を歩くコースです。尾根や谷にサブルートがあるため、変化に富んだ環境を楽しめます。

クマゲラ
日本最大のキツツキ。ときどき飛んでくる。

湿地ルート
看板等はありません。歩く際は迷わないようご注意ください。

沢渡りルート
(予定)
冒険者向けのルートです。道はありませんので今は通れません。

ハチクマ
大型のタカ。スズメバチなどのハチの巣を襲う強者

アライグマ
北米からの移入種。畑では嫌われ者

エゾユキウサギ
可愛いが、苗木を食べちゃう

エゾリス
クルミ平の立役者？

エサをやったキタキツネ

苗木をかじってしまうこともエゾシカ



10年以上たって5mを超えるほど成長した木も



「ハポニレ」はあすもりスタッフが名付け親